

## 事業の状況

本年度も公益目的支出計画を確実に実施するため、ローソン、薬局、ドトールコーヒーショップ、駐車場整理業務等の運営収入により財源を確保し、実施事業である「医学に関する研究の奨励及び助成事業」、「患者支援事業」、「学生に対する福利厚生事業」「患者等のための食堂事業」を行った。

主な事業別の収益は、昨年度に比べローソン、外商及び食堂においては増収となった。また、消費税の算出方式を変更し、消費税超過分を雑収益に計上したことで雑収益が増えたものの、薬局においては、特に金額の高い薬の処方が減り減収となったこと、駐車場整理業務においては、平成28年11月から新たな駐車場等管理業務請負契約の締結となり収入が減ったこと等で、経常収益合計では昨年度に比べ約1.7%、約2,246万円減の約12億6,640万円となった。費用は、弘前大学創立70周年記念事業として医学振興・医療技術の向上のための助成を行ったこと、人員確保及び定着率アップのため、準職員及びパートタイム職員の時間給の底上げを実施したこと、ローソン、外商の売上増に伴い仕入費が増えたこと、定期昇給や継続勤務期間により退職給付引当金繰入額が増えたこと、消費税の算出方式を変更し、消費税計上分を租税公課に計上したことで租税公課が増えたものの、薬局の売上減に伴い仕入費が減ったこと、新たな駐車場等管理業務請負契約で費用の一部が受注者負担から発注者負担となり、光熱水料費等の費用が減ったこと等で、経常費用合計では昨年度に比べ約2.5%、約3,218万円減の約12億6,020万円となり、当期経常増減額は約620万円の収益超過となった。なお、経常外の費用超過並びに法人税、住民税及び事業税の合計で約59万円となり、最終的には当期一般正味財産増減額が約561万円の増加となった。

平成29年度の主な事業内容は、次のとおりである。

1. 医学に関する研究の奨励及び助成事業	14,090,000円
① 弘前大学における医学に関する研究助成	4,590,000円
医学研究科臨床中央研究室への研究助成	
医学研究科附属動物実験施設への研究助成	
附属病院の診療技術向上に対する助成	

附属病院検査部に対する研究助成

弘前大学保健管理センターの成人病の研究に対する助成

② 医学研究科各講座学術集会の主催に対する助成 100,000 円

③ その他、医学振興・医療技術の向上へ寄与する助成 9,400,000 円

弘前大学創立70周年記念事業に対する助成

附属病院の管理運営に対する助成

附属病院看護部に対する研究助成

学生用図書購入に対する助成

2. 患者支援事業 1,102,119 円

附属病院内に観葉植物を配置

院内コンサート等の実施に対する協賛

附属病院で行われる七夕納涼祭実施に対する援助他

3. 学生に対する福利厚生事業 735,780 円

弘前大学総合文化祭に対する助成

弘前大学のねふた出陣に対する助成

医学部学生の教育研究に対する助成

4. 患者等のための食堂事業

食堂においては、幅広いお客様に安全・安心な材料を調達し徹底した衛生管理に努めた。健康を考えるお客様への減塩メニューの提供及び約2週間毎に工夫したおすすめメニューの提供を行い好評を得ている。また、材料の調達先の見直しや価格交渉に努め材料費削減を図った。なお、今年度も学生に対する値引き提供について、チラシの掲示や学生ガイダンス時の資料に加え配布し周知徹底を図ったことで、学生の利用が増えた。

5. 病院内及び周辺における患者等に対する小売・サービス業

イ) ローソンにおいては、店内厨房で調理した惣菜を含む弁当類の販売を強化し、

チャンスロスと廃棄ロスの減及び仕入削減に努めた。弁当類の不足の時は、即時に店内厨房で調理した弁当類を販売し、利用者への便宜を図った。また、恵方巻、うなぎ、おせち、クリスマス等の催事商品を店頭等に陳列し季節感を高めるなど工夫を凝らし販売強化に努めた。

- ロ) 薬局においては、平成29年10月から基準調剤加算の要件をクリアし算定を開始した。また、服薬支援の在宅訪問等の業務については、利用者の増に努めたものの、金額が特に高い薬の処方が減り、減収となった。

医療安全セミナーや緩和ケアセミナー等に積極的に参加し、モチベーションを高め、患者との信頼関係を築き、かかりつけ患者の増につなげるなどにより、適切な調剤業務を行った。

- ハ) ドトールコーヒーショップにおいては、コーヒー専門店ならではの厳選された品を提供する際のお客様への声掛け、コーヒーや調理パンの提供に要する時間の短縮等のスキルアップを図った。また、キャンペーン商品、ギフト、福袋、クリスマス等の催事商品のラッピングや、手作りのプライスカードで購買力を高めるなど工夫を凝らし販売強化に努めた。

- ニ) 駐車場整理業務においては、来院者が安心して利用できるよう適切な誘導に心がけ、優しく親切丁寧な誘導を行った。また、車椅子等利用者の誘導については、利用者の安全かつスムーズな入退車に努めた。

- ホ) 外商においては、平成29年5月より弘前大学が開発し抽出したプロテオグリカンを配合した化粧品・ジュース等を販売し好評を得ている。また、ウィッグの販売や病院スタッフやお客様から要望のある衛生材料、健康食品等の取り寄せを継続して行った。さらに、病院からの要望に応え、飲料の自動販売機を増設した。